

2025. 1. 15

1月例会

日時 令和七年一月十五日(水)

テーマ 「ドラギ報告…欧州の競争力の未来」の批判的評価

講師 静岡大学 人文社会科学部 経済学科 教授

安藤研一氏

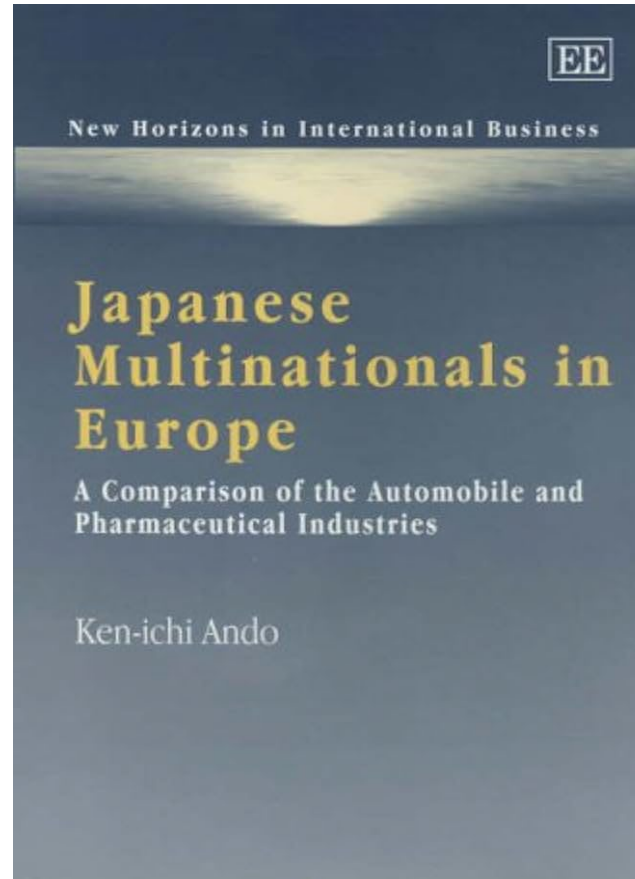
安藤研一氏

■ 略 歴

1986年北海道大学経済学部卒業、1991年MA of European Studies, University of Reading (UK), 2002年PhD, Economics, University of Reading (UK)。静岡大学人文学部講師、助教授を経て、2006年より現職。また、2005年から2007年にかけて東京大学兼任教員。2011年度University of Geneva, Visiting Scholar。2021年から日本EU学会理事。専門は世界経済論。



人の国際移動とEU: 地域統合は「国境」をどのように変えるのか?、法律文化社 (2016/4/15)



Japanese Multinationals in Europe (2005)
国際ビジネス研究学会 学会賞 (2005年度) 受賞

2025. 2. 19

2月例会

日時 令和七年二月十九日(水)

テーマ 学びの本質

・グローバルサウスから見たイノベーションと技能形成

講師 名古屋大学大学院国際開発研究科教授

山田肖子氏



山田肖子氏

■ 略 歴

名古屋大学Skills and Knowledge for Youth (SKY) Project代表。国際開発学会会長(2023年～)。コーネル大学修士課程、インディアナ大学博士課程修了(Ph.D.)。

専門は知識社会学、国際開発学、アフリカ研究で、アフリカ社会での知識の社会的構成、人材育成に関わる政策や認識論などを研究している。近年は、アフリカ以外のグローバルサウスの国々でも、産業人材の能力評価や人材育成に関わる政策提言を行っている。近著は「途上国の産業人材育成—SDGs時代の知識と技能」(2021年、日本評論社)、「学びの本質」(2024年、新潮社)など。



学びの本質、新潮社 (2024/10/17)



途上国の産業人材育成、日本評論社 (2021/2/9)

2025. 3. 12

3月例会

日時 令和七年三月十二日(水)

テーマ データとケースでわかるヨーロッパ企業

講師 同志社大学 経済学部経済学科 准教授

和田美憲氏

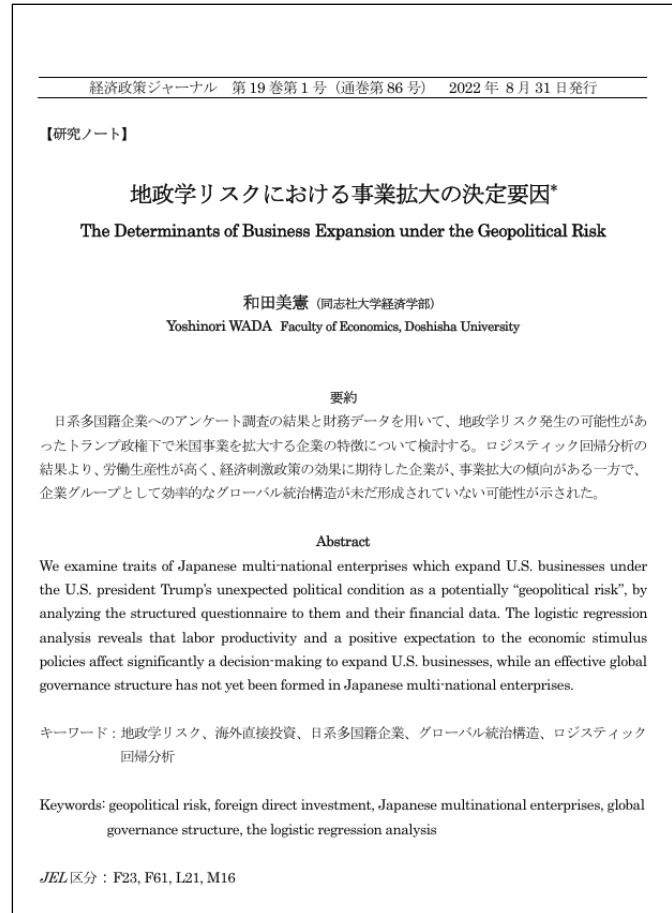
■ 略 歴

1996年、同志社大学経済学研究科大学院修士課程修了。その後、ロンドン大学で経営学と組織心理学を学び、2003年にロンドン大学から経済学・経営学の博士号を授与。経済学、経営学、および心理学の知見を活かし、企業戦略や宗教行動に関する学際的研究を行う。2006年から2008年までドイツのボン大学東アジア研究所の客員教授、2016年から2019年にかけて、ケンブリッジ大学クレアホールおよびセントキャサリンカレッジのリサーチ・フェロー。

和田美憲氏



データとケースでわかるヨーロッパ企業、中央経済グループパブリッシング (2024/10/24)



地政学リスクにおける事業拡大の決定要因, 経済政策ジャーナル 19(1) 1-16 (2022.8)

2025. 4. 16

4月例会

日時 令和七年四月十六日(水)

テーマ 比較のなかの韓国政治

講師 同志社大学グローバル地域文化学部教授

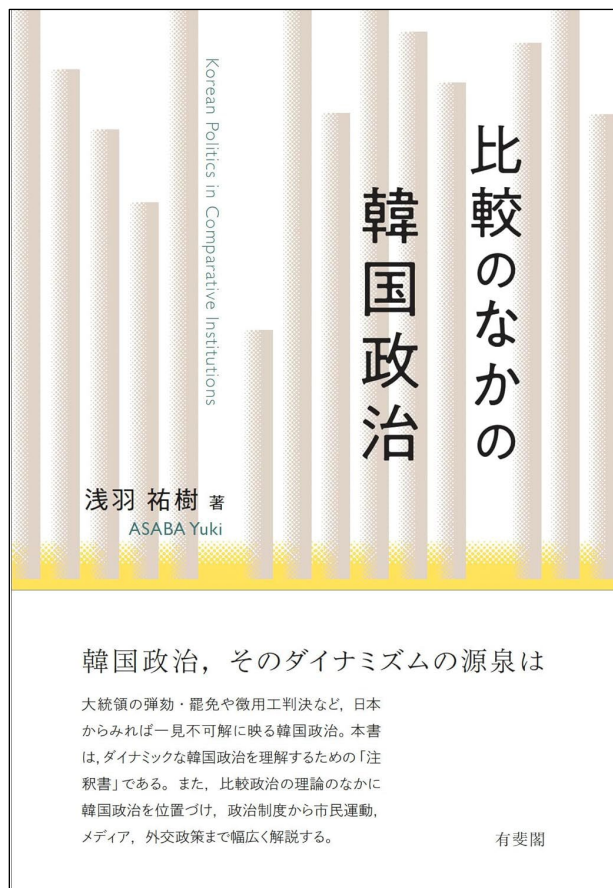
浅羽祐樹氏



浅羽祐樹氏

■ 略 歴

立命館大学国際関係学部卒業、ソウル大学校社会科学大学政治学科博士課程修了(Ph.D (Political Science))。九州大学韓国研究センター講師、山口県立大学国際文化学部准教授、新潟県立大学国際地域学部教授を経て、2019年4月から現職。専門は、韓国政治・比較政治学・司法政治論。主な著作に、『韓国語セカイを生きる 韓国語セカイで生きる』(共編著、朝日出版社、2024年)、『はじめて向きあう韓国』(編著、法律文化社、2024年)、『比較のなかの韓国政治』(有斐閣、2024年)、『韓国とつながる』(編著、有斐閣、2024年)ほか。



比較のなかの韓国政治、有斐閣 (2024/12/6)



韓国とつながる、有斐閣 (2024/12/17)

2025. 5. 16

5月例会

日時

令和七年五月十六日(金)

テーマ

日本の価値再発見…異分野間の融合に貢献する
見えざる卓越性

講師

キュレーター、前金沢21世紀美術館館長
長谷川祐子氏

■ 略 歴

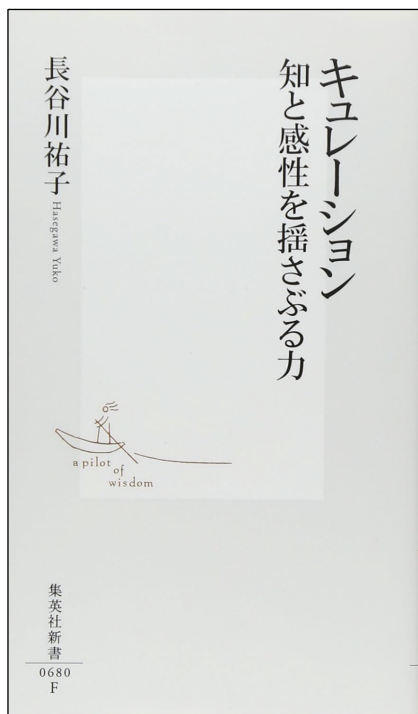
キュレーター。京都大学客員教授、公益財団法人国際文化会館 アート・デザイン部門プログラムディレクター、総合地球環境学研究所 客員教授、東京藝術大学 名誉教授、前金沢21世紀美術館館長。

文化庁長官表彰(2020年)、フランス芸術文化勲章シュヴァリエ(2015年)、ブラジル文化勲章(2017年)、フランス芸術文化勲章オフィシエ(2024年)を受賞。これまでイスタンブール(2001年)、上海(2002年)、サンパウロ(2010年)、シャルジャ(2013年)、モスクワ(2017年)、タイ(2021年)などでのビエンナーレや、フランスで日本文化を紹介する「ジャパノラマ:日本の現代アートの新しいヴィジョン」、

「ジャポニスム 2018:深みへー日本の美意識を求めてー」展を含む数々の国際展を企画。国内では東京都現代美術館にて、ダムタイプ、オラファー・エリアソン、ライゾマティクスなどの個展を手がけた他、坂本龍一、野村萬斎、佐藤卓らと「東京アートミーティング」シリーズを共同企画した。

主な著書に、『キュレーション 知と感性を揺さぶる力』、『「なぜ？」から始める現代アート』、『破壊しに、と彼女たちは言う: 柔らかに境界を横断する女性アーティストたち』など。

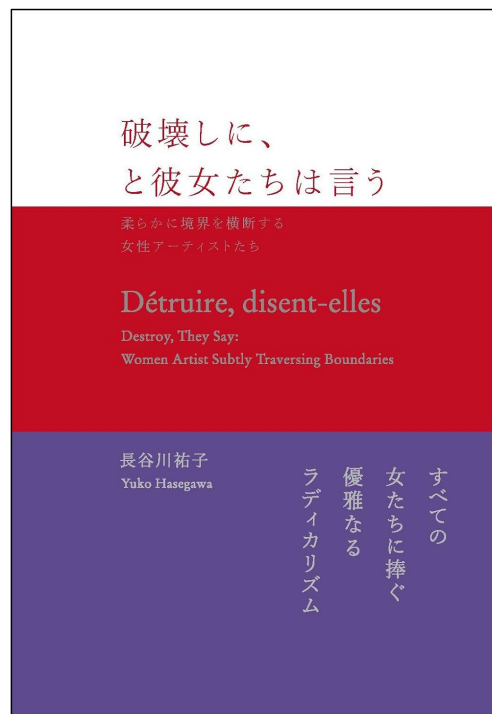
長谷川祐子氏



キュレーション 知と感性を揺さぶる力、集英社 (2013/2/15)



「なぜ？」から始める現代アート、NHK出版 (2011/11/8)



破壊しに、と彼女たちは言う - 柔らかに境界を横断する女性アーティストたち、東京藝術大学出版会 (2017/3/30)

2025. 6. 18

六月例会

日時 令和七年六月十八日(水)

テーマ 産業政策の意図せざる結果

講師 一橋大学経営管理研究科教授

島本 実氏



島本 実氏

■ 略 歴

1994年一橋大学社会学部卒業。1999年同大学院商学研究科博士課程修了。一橋大学博士(商学)。2003年～2004年、ハーバード大学客員研究員。2004年一橋大学 商学研究科 准教授、2014年一橋大学 商学研究科 教授を経て、2018年より現職。研究上の関心はイノベーションの経営史・政策史にあり、具体的には、再生可能エネルギー、ファインセラミックス、バイオテクノロジーなどにおける産官学連携を通じた組織的な新技術・新産業創出プロセスの歴史的解明を研究テーマとしている。

やさしい経済学

産業政策の意図せざる結果 ①

一橋大学教授 島本 実

近年、各国政府が産業構造の高度化やイノベーションの実現に、政策面から積極的に関与しようとしています。日本でも政府が、経済の活性化だけでなく、地政学リスクの高まりを受けた経済安全保障を含め、産業政策の新機軸を打ち出しています。

一方で、各国が安全保障の見地からサプライチェーンの地域を限定したり、貿易を関税などでコントロールしたりすることは、経済全体に対するマイナスの影響も小さくはありません。この点で政治や政策の論理と、経済や経営の論理は真つ向か対立します。

政府と企業との間には、経営の自由の保障、リスク分担の主体、公的規制の妥当性を巡り、常に緊張関係

過去の事例から学ぶ政策

が存在します。公共的な目的の達成を目指すことは、別のところで社会的損失を生む危険性も有します。政策によって経済をコントロールすることは思った以上に困難なのです。

日本の過去の経験を見ると、政府が産業を育成しようとしたものでも、意図した通りに成功した例は決して多くはありません。戦後の日本政府は、重要な産業を育成する政策を進めてきました。それらの対象は、鉄鋼、石油、化学、自動車、航空機、産業機械、電子機器といったものです。これらの産業のいくつかはその後、民間企業の努力などもあって、日本のリーダーディングインダストリーになっていきました。さらにその後は、再生可能エネルギー、新材料、バイオテクノロジーも育成の対象とされました。

これらの産業のうち、あるものは成功を収め、あるものはそうはなりません。何がそれらを分けたのでしょうか。

現在、世界情勢が政治的に不安定になる中で、日本でも戦略的な産業政策のあり方が議論されています。その方策を考える際に、過去の産業政策の歴史から学ぶことは多くあります。そこには思いもよらない数々の意図せざる結果がありました。次回からは歴史を振り返って、何が起きたのかを見ていきます。

しまもと・みのる 一橋大学博士(商学)。専門は経営史、経営組織論



産業政策の意図せざる結果(全10回)、やさしい経済学、日本経済新聞 (2025.2.27~3.13)

計画の創発—サンシャイン計画と太陽光発電, 有斐閣 (2014/11/28) 第58回「日経・経済図書文化賞」受賞